

組合員・地域に「なくてはならないJA」をめざして



11月28日 臨時総代会開催

事業拠点再構築計画案 可決

令和4年度までに 10支所 ⇒ 3支所体制へ



賛成挙手をする総代の皆さん

「より身近なJA」をめざし、
出向く体制を強化

上松町ひのきの里総合文化センターで開催された臨時総代会には総代507人のうち、書面出席を含めた488人が出席し、事業拠点再構築計画案について420人の賛成を得て可決、承認されました。

JA木曾は令和4年度までに、地域の人口減少や農業の担い手不足・高齢化など、JA経営を取り巻く厳しい環境に対応するため、現在10ある支所を3支所に集約再編し、機能や職員を集中させてサービスの向上を図って出向く体制を強化し、「より身近なJA」を目指します。

田屋万芳組合長は「5年、10年また20年先も存続できるJAにするため、再編計画の進捗状況をその都度組合員の皆さんに説明し、組合員の声を聞きながら対応していきたい」と理解と協力を求めました。

(裏面もご覧ください)

第1号議案

臨時総代会提出議案採決結果

「JA木曾事業拠点再構築計画」の設定について

総代定数 507名
本人出席 162名
書面出席 326名

採決結果

賛成挙手総数 131名
書面賛成総数 289名
書面反対総数 37名

第1号議案については、賛成挙手と書面賛成の総数の合計420名により過半数と認め、議案通り可決されました。

組合員の負託に応えうる、 JAであり続けるため、 役員一丸となって取り組む

田屋組合長は、開会のあいさつの中で、事業拠点再編の理由と、各支所の運営委員会での説明をはじめ職員や各町村関係者への説明、組合員や利用者に対する地区説明会を2回ずつ開催するなどにより同計画案への理解を求めて

きた経緯を報告。「厳しい意見も出たが、将来にわたって組合員の負託に応えうる、地域に「なくてはならないJA」にするために、JAが掲げる“農をつくる・くらしをつくる”に向けて役員一丸となって取り組む覚悟である」と決意を述べました。

組合員・利用者の声を聞き、 計画実行へ

質疑応答では、支所再編計画案の具体性を求める意見や木曾の農業存続のための施策強化への要望など多くの意見や質問が出されました。同計画案に賛同する総代からは「地域と共生して利便性を良くし、組合員が愛するJAになってもらいたい」とのご意見もいただきました。

支所機能の再編成整備につきましては、来年5月の総代会で定款変更など必要な手続きを諮ってから実行に移す予定です。

支所再編は、組合員・利用者の満足度向上を目指した自己改革です。組合員・利用者の声を聞きながら再編に向けての各種検討を重ね、組合員・利用者・地域の皆様に親しまれご利用いただけるJAづくりに向け取り組みを進めてまいります。



意見を述べる総代



議長を務めた邑上豊美さん(木曾福島)(右)と答弁する田屋組合長(左)